

社会福祉法人中央会 平成28年度事業報告

【施設方針】

施設理念「家のぬくもり、家族のつながり、地域のつながりのある暮らし」の実現に取り組む。

【行動方針】

1. 地域包括ケアシステムを見据えた運営

地域包括ケアシステムを見据えて、デイサービス・ショートステイ・小規模多機能型居宅介護・グループホーム・特別養護老人ホームの運営ができた。また利用者様や家族様、担当ケアマネに対し、中央会グループのサービスを活用しながら「住み慣れた地域で自分らしい生活を人生の最後まで続けられる」ための提案を行なうことができた。開設7年目になり、デイサービスを利用して頂いた利用者様を、家族様とも馴染みの関係を継続しながら、特養での看取りまでお世話ができるようになった。

2. 5事業所（特養・ショート・デイサービス・小規模多機能・グループホーム）同士の連携した運営

入居施設のグループホームと特養の空室が出た時は、各事業所からも入居候補者の情報を得るための会議を開催した入居対応ができた。利用者様にとって切れ目のないサービスの提供ができた。

3. 中央会グループ内での連携した運営

医療との連携について、病棟から退院後すぐにショートステイや小規模多機能を利用する利用者様を受け入れる場合、安全に滞在して頂くためには、職員の1人夜勤を2人夜勤にする、ベテラン職員を配置する、あるいは早出・遅出の職員を増やす等のシフト調整や、入居部屋の調整等の準備を必要とした。また、医療面の情報収集とともに担当ケアマネからは生活支援方法や家族の希望などの情報を得ることも必要だった。実際、レクレーションに参加したい、みんなと一緒にリビングで食事をしたい、付き添いをしたい等、施設での過ごし方について希望される利用者様・家族様が増えている。急な利用も多く各部署とのきめ細やかな連携が必要だった。直前までは病院の患者様だった方が、不安や不満を感じることなく過ごし満足して頂くことが、次のスムーズな退院支援から利用につながると実感することが多かった。

4. 介護人材不足と人件費対策として、効率的・柔軟・適正な職員配置

給与について、社員の場合、平成27年の基本給10000円アップに加え介護保険から介護職員処遇改善加算を月額約28000円支給されており支給額は合計38000円上がった。しかし金沢市における介護職員不足は続いており職員採用は難しい状況だった。

利用者様に合わせた柔軟な職員配置については事業所によって、特に小規模多機能においては夕食後の送りを希望される利用者様が多くなり時間調整で対応することが多かった。

5. 研修体制の充実

グループワークを取り入れた参加型研修会、事業所での取り組み発表、外部研修参加者の伝達講習、外部講師による研修会などを取り入れた。勤務時間以外の自主参加者を期待したが研修参加人数の変化は見られなかった。内容については「自身の振り返りとケアの理解を深めることができて良かった」と好評だった。

6. 各種委員会活動の充実

職員一人ひとりの委員会活動への意識は高くなっている。積極的に活動に取り組んでくれる職員も多く、そのことが施設の質向上と利用者様や家族様の満足につながっている。

7. 経営基盤の強化と確立（グラフ参照）

I. 合計資金収支比較

(1) 事業活動収入について

平成26年は、11月にグループホームを開設したことにより収入は4億円台になった。平成27年は、介護保険制度改正による介護報酬減額のため介護保険収入は減った。しかし、グループホームが1年間稼働したこと、介護職員処遇改善加算収入があったことから、収入は2000万円ほど増加している。平成28年は、160万円増だった。

(2) 事業活動支出

平成26年は、グループホーム開設に伴う職員採用と運転資金のため4680万円支出増になっている。平成27年は、増額した介護職員処遇改善加算をそのまま給与で支給していること、職員基本給を1万円アップしたこと、による人件費増加が主な原因となり3580万円の支出増となった。平成28年は、コンピューターネットワーク工事、グループホームと本館間の電話工事、エコキュート保守点検、設備機器の修理、家電製品の買い替え、等の出費が多かったが、人件費以外での支出削減努力で横ばいになった。

(3) 事業活動資金収支差額について

収入増を上回る支出増のため、平成27年の利益は平成26年比でマイナス1500万円の3780万円に減少した。平成28年は3916万円と横ばいだった。

(4) 当期資金収支差額合計について

平成28年の事業活動資金収支差額は3916万円だったが、借入金返済額がピークを迎えたことをうけ、38万円の赤字という結果になった。このきびしい状況は借入金返済額が約3400万円/年から2200万円/年に減る平成32年までの、平成29年、30年、31年の3年間は続くと予測できる。この間の対策として収入を増やすため、

①定員を満たさないデイサービスと小規模多機能の稼働率を上げること ②特養・ショートステイ・グループホームの稼働率を維持すること ③支出を減らすため、給食委託費を平成29年度から60万/年を削減予定だが、経営状況によっては掃除の一部を職員業務にすることで清掃委託費を削減することも検討しなければならなくなる。

II. 各事業所の資金収支比較

(1) 特別養護老人ホーム

10月に13名のRSウイルス感染者が発生し6名が入院となり、稼働率78%に落ち込んだ。インフルエンザ時期にはタミフル予防投与で蔓延、重症化を防ぎ平均稼働率96%を維持できた。入居者様が入院した場合は、病状の確認を行ないショートステイの空床利用に努めた。事業活動資金収支差額は平成27年と比べ94万円減だった。

(2) ショートステイ

稼働率は予約の時点では100%となっている。しかし、住宅型有料老人ホーム等の施設入居と、入院したことによるキャンセルが多かった。キャンセルが出た場合はすぐに居宅介護支援事業所に「空き情報」を出し営業活動を行なっている。しかし近隣にショートステイが増えたことでキャンセル待ちが減り、入居者確保が困難な状況となっている。稼働率99%は維持できたが、事業活動資金収支差額は772万円に半減した。これは平成28年の人件費が27年に比べ109%に増えたことによる。

(3) グループホーム

開設3年目に入り、稼働率99%、待機者は20名おり運営は良好だった。事業活動資金収支差額は約1494万円得られた。借入金償還額が年間約1300万円のため、当期資金収支差額は126万円となっている。

(4) 小規模多機能

登録定員25名のところ18名の登録に留まり、稼働率は73%だった。通所定員が15名のところを多くの利用者様が毎日の通いを希望するため登録を増やせないこと、安価な入居施設が増えており小規模多機能を利用して在宅生活を続ける利用者様は減っていること、が課題となっている。そのため、平成27年に比べ改善したとは言え、事業活動資金収支差額は赤字約27万円となった。

(5) デイサービス

平成26年で稼働率90%を超えたため、要支援者よりサービスの必要度の高い要介護者を優先する方針に変更してから稼働率は低下している。思ったように要介護の利用者様が増えなかったためである。しかし人件費は減っているため事業活動資金収支差額は約1530万円を得ている。

■合計資金収支比較

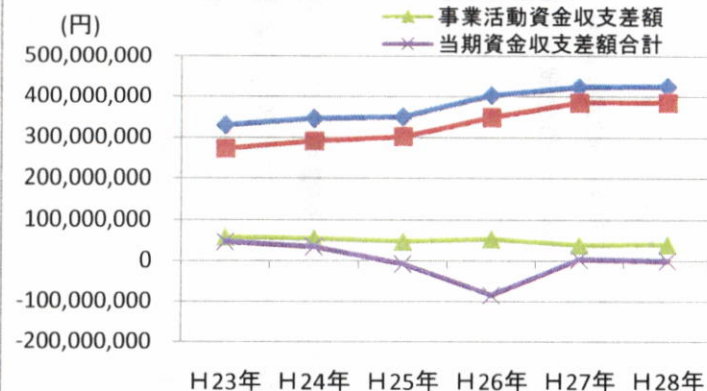
	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
事業活動収入	329,260,422	345,021,821	348,840,442	401,776,992	422,535,137	424,168,645
事業活動支出	271,978,125	290,512,749	302,015,685	348,877,098	384,733,677	385,008,441
事業活動資金収支差額	57,282,297	54,509,072	46,824,757	52,899,894	37,801,460	39,160,204
当期資金収支差額合計	45,775,040	33,903,593	-8,134,895	-84,913,222	2,954,170	-380,956

グループホーム開設

介護報酬減額
介護職員処遇改善加算の増額
職員基本給一万円アップ

借入金償還額ピーク
(3400万円)
家電品の修理・買換え
パソコンのサーバー入替え

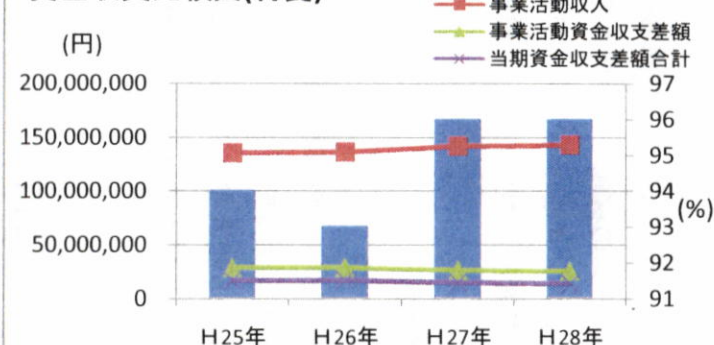
合計資金収支比較図



■資金収支比較(特養)

特養		H25年	H26年	H27年	H28年
	稼働率%	94	93	96	96
事業活動収入	135,880,891	136,823,112	142,151,979	143,267,489	
事業活動資金収支差額	28,704,013	28,683,499	26,258,580	25,313,988	
当期資金収支差額合計	16,667,747	17,055,048	15,020,873	13,959,031	

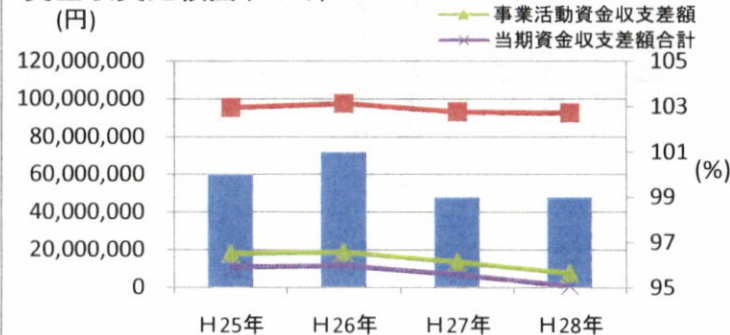
資金収支比較図(特養)



■資金収支比較(ショート)

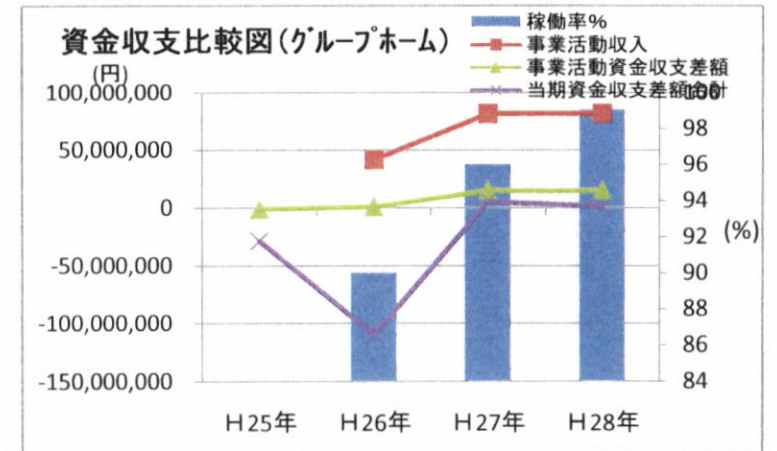
ショート		H25年	H26年	H27年	H28年
	稼働率%	100	101	99	99
事業活動収入	95,371,348	97,571,033	93,177,443	92,711,780	
事業活動資金収支差額	17,954,758	18,816,229	13,581,809	7,725,407	
当期資金収支差額合計	10,914,112	11,801,699	7,002,627	948,688	

資金収支比較図(ショート)



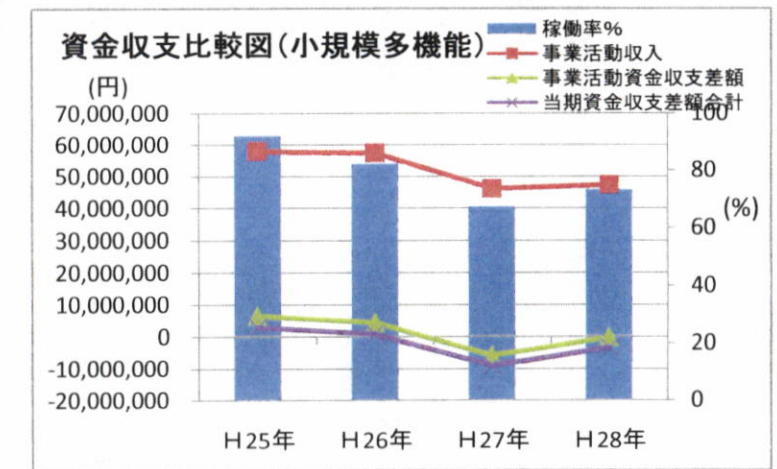
■資金収支比較(グループホーム)

		H25年	H26年	H27年	H28年
GH	稼働率%		90	96	99
	事業活動収入		41,518,912	81,425,963	81,473,553
	事業活動資金収支差額	-1,189,583	866,957	14,768,653	14,947,148
	当期資金収支差額合計	-28,749,583	-110,268,935	5,288,386	1,269,856



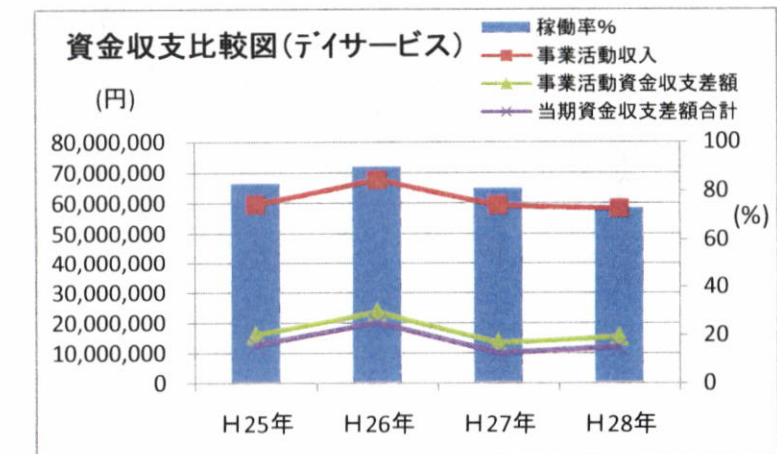
■資金収支比較(小規模多機能)

		H25年	H26年	H27年	H28年
小規模	稼働率%	92	82	67	73
	事業活動収入	57,841,244	57,455,598	46,101,530	47,265,785
	事業活動資金収支差額	6,458,835	4,345,766	-5,971,327	-277,614
	当期資金収支差額合計	2,879,180	765,433	-9,073,594	-3,446,369



■資金収支比較(デイサービス)

		H25年	H26年	H27年	H28年
デイ	稼働率%	83	90	81	73
	事業活動収入	59,456,832	67,570,641	59,223,220	58,252,109
	事業活動資金収支差額	15,836,433	23,448,624	13,263,971	15,306,598
	当期資金収支差額合計	12,604,826	20,092,683	10,044,102	12,036,539



8. 事業所目標

特別養護老人ホーム

- (1) 人が人を想う心を大切にし、職員・入居者様・家族様とのつながりを深める
入居者様・家族様とは良い関係を築けていると思われる。職員間につながりでは不十分なところもあった。
- (2) 入居者様にとっての視点を持ち、優先順位を考え行動する
職員本位の考えや行動が見受けられた。目標は継続する。
- (3) ケアプランに沿った記録をし、統一したケアを行う
スタッフがモニタリングも作成するようになり、記録の義務付けはできてきたと思われる。

【ショートステイ】

- (1) 職員個々が専門職のスキル向上とチームワークの充実を図る
スキル向上不足に対しては個々の課題として今後も取り組んでいく。
- (2) 「できること」「可能性」を広げられるような目標を掲げ個別ケアを実践する
個々の関わりを大切にできた。「できること」「可能性」を引き出すことはできる範囲で行なうことができた
- (3) 安心して過ごせるような、温かみのある居心地のよいフロアづくり
利用者様に合わせたレクリエーションや体操を行ない、温かみのあるフロア作りができた。業務に追われた時に笑顔ができていないことがあった。
- (4) 利用者様のペースに合わせたケアに努める
十分ではないが、できたと思われる。

【グループホーム】

- (1) 入居者様に寄り添いここに居たいと思っただけのために憩いと和みのある暮らしを実現する
ゆとりをもつように業務の見直しに取り組んできたが余裕がない場面があった。チームワークはできてきたがケアについて情報の共有がなされていないことがあり、各自の思いによってケアが行なわれていることがあった。
- (2) 向上心を持ってスキルアップする
緊急時対応の勉強会を看護師参加で開催し勉強になった。認知症については施設内研修で発表の機会があり、ひもときシートやエマニチュードについて学ぶことができた。
- (3) ケアプランの実践と記録
思いを聴きプランに取り組んできたが共有されていないことがあった。記録については職員の意識が高まり、内容・量ともに改善されてきた。

【小規模多機能】

- (1) 「明るく」「楽しく」「温かい」ユニット作りをめざしコミュニケーションをたくさん取ろう

接遇を意識・傾聴し、その時々表情から心の中にある思いを知るよう努めた。時に業務が優先となってしまう不十分なケアになっていた。また外出や行事は、一部の利用者様に合わせがちになり、個々の利用者様の楽しみややりたいことをもっと取り入れれば良かった。

- (2) 小さな気づきを皆で共有しよう

訪問・来所時の記録、申し送り、連絡ノートの活用と職員間の声かけである程度の情報共有はできた。しかし利用者様同士の関わりなど小さな気づきについては不十分だった。職員1人ひとりが細やかな気づきを行い、情報共有するためにはもっとコミュニケーションが必要だった。

【デイサービス】

- (1) 明るく元気な挨拶、返事をする

利用者様にはできていたが、職員間において挨拶ができていなかった。声が小さい、明るさに欠ける、などがみられた。

- (2) ケアプランに沿ったケアの提供

全員が意識して取り組んだ。しかし、時間に追われ利用者様との関わりは十分ではなかった。今後も1人ひとりに寄り添ったケアをめざす。

- (3) 個別レクリエーションの実践

利用者様の希望を取り入れたレクリエーションを実施できた。今後も職員間で話し合い内容を充実していく。

【看護部】

- (1) 情報を共有し統一した看護を提供する

申し送りノートを活用し施設全体の情報を交換し共有できた。個々が報・連・相を心がけることができた。

- (2) 介護職の医療的な知識向上のために、サポートしていく

ショートステイではエマージェンシー委員会を中心に行なうことができた。グループホームでは緊急時対応の勉強会に参加した。医療面でのサポートは今後も継続していく。

【栄養部】

- (1) 利用者様の希望を取り入れながら身体の状態に合わせた食事を提供する

常食を嚥下困難や消化不良の方でも形のあるものを食べられるよう柔らかく工夫した。しかし味付けや見た目の工夫は足りなかった。ソフト食は改良を行ない栄養価と味の向上につとめた。残食が減り利用者様の満足も得られたと思われる。

(2) 安全安心かつ楽しく食べて頂ける食事を提供する

食事内容に季節感、バラエティー感を取り入れることができた。セレクト食は定着できたがメニュー数を増やすことはできなかった。

【事務部】

(1) 利用者様、家族様の顔と名前を覚える

意識して覚えることで接遇が良くなった。

(2) 各部署と連携して情報の共有をし、速やかな対応をする

各部署との連携がまだ不十分だった。入退所・入院・亡くなられたなどの情報があれば家族様が来られた際に臨機応変に対応することができるので、来年度も目標を継続していきたい。

(3) 良い印象を与えることができる接遇を心がける

明るい笑顔で利用者様・家族様に挨拶することができた。第一印象は大切なので引き続き心がけていく。

9. 特別養護老人ホーム入退所（定員29名）

[H28年4月1日 ~ H29年3月31日]

年度	区分	新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
平成28年度	4										
	5								1	1	
	6			1	1						
	7										
	8										
	9	1		1	2				1	1	2
	10		1	2	3		2			1	3
	11	1		2	3		2			1	3
	12	1			1		1				1
	1	1			1		1				1
	2			1	1		1				1
	3	1		1	2		1	1			2
	計	5	1	8	14		8	1	1	4	14

10. 救急車搬送状況

[H28年4月1日 ~ H29年3月31日]

年度	月	件数	部署	状況
平成	4	1	ショート	一過性意識消失
	5	2	特養 ショート	吐血 呼吸停止
平成	6	2	GH デイ	低酸素脳症 腹痛・嘔吐
	8	2	ショート	呼吸状態悪化 意識レベル低下
平成28	9	2	特養 ショート	呼吸状態悪化 めまい・嘔吐
	10	1	特養	呼吸状態悪化・肺炎
平成	11	1	特養	呼吸状態悪化・肺炎
	3	3	特養 ショート2件	レベル低下 転倒：頭部打撲 2件
合計件数		14		

11. 事故発生状況（金沢市報告）

[H28年4月1日 ～ H29年3月31日]

部署	件数	状況	
特養	6	顔面Ⅰ度熱傷	モーニングケアの蒸しタオルで顔を受傷させてしまう
		集団感染	9/28～10/5 13名発熱。RSウイルスであった
		右下肢切創	車いすからベットへ移乗する際、車いすのフットレストにぶつけたと思われる
		左前額部皮下出血	未明ベッドから一人で降りようとして転落または転倒
		腰椎圧迫骨折	未明ベッドから一人で降りようとして転落または転倒
		右上腕骨骨折	自力で車いす乗車の際、アームレストに強打したと思われる
ショートステイ	5	右前額部打撲	夜間ベッドから上半身が落ちているのを発見
		右前額部打撲	夜間トイレにて転倒し、手すりにぶつけたと思われる
		腹部打撲	夜間居室にて転倒。椅子に腹部をぶつける
		死亡	夕食を自己にて摂取後、居室にて嘔吐、窒息
		右鎖骨骨折	夜間ベットから降り、床を這っているところを発見 詳細不明
グループホーム	4	左大腿部頸部骨折	夜間ベッドからの起き上がり時に掛け布団が絡まり転倒したと思われる
		左頬裂傷	朝食時フロアに出てくるときに躓き、テーブル角に左頬を打ち転倒
		左頬、左大腿部打撲	夜間洗面所台前で転倒
		頸椎捻挫	夜間居室にて立ち上がり、立ちくらみがして転倒
小規模多機能	1	左大腿骨転子部骨折	夜間トイレに移動中、自分のズックにつまづいて転倒
デイサービス	2	左膝擦過傷	朝のお迎え時、自宅玄関先で転倒
		右上下眼けん部裂傷	車椅子で施設内を散歩中、急に上半身を前に乗り出し支えきれずに転落

12. 職員の採用・退職の状況

[H28年4月1日 ～ H29年3月31日]

職種別	施設長	事務員	直接処遇職員				栄養士	療理学療法士	療法士作業	宿直	合計
			相談員	生活	介護員	看護員					
平成28年度	採用				12	1	13				13
	退職				19 (6)	0	19 (6)				19 (6)
	3月末職員数	1	3 (1)	3	69 (18)	6	78	1	1 (1)	2 (2)	86 (22)

()はパート等非常勤人数

13. 施設職員の研修状況

〔H28年4月1日 ～ H29年3月31日〕

	回数（延べ人数）	
新人研修	2回（6名）	倫理・法令遵守 防災 感染対策 事故防止 身体拘束排除など
職場外研修	49回（96名）	石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター等の研修会に参加
職場内研修	10回（229名）	感染予防 地域社会資源の把握及び連携 オンコール時の報告
		記録について ターミナルケアと看取り介護 認知症ケア 胸骨圧迫講習
		各事業所発表（福祉用具取り扱いとデモンストレーション・記録内容改善
		認知症ケア取組み等）
外部講師研修会	13回（271名）	接遇研修 中堅・リーダーフォローアップ研修 仕事と介護の両立
		緊急時の対応 移乗・腰痛予防 褥瘡予防 事故防止